

ホクコーダイロン®ゾル

■種類名：DCMU水和剤
 ■有効成分：DCMU ----- 50.0%
 ■化管法指定物質：ジカシ又はDCMU [第1種] ----- 50.0%

■登録番号：第22908号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
 ■登録初年：2011.03.16
 ■性状：白色水和性粘稠懸濁液体
 ■有効年限：4年
 ■包装：500ml×20本

【特長】

- 一年生のイネ科雑草および広葉雑草に高い効果を示す。
- 雑草発生前～雑草発始期の処理により、高い効果を示す。
- ゾル化により、薬液の調製が容易となり、除草効果が向上した。

【適用内容】(2025年2月12日現在)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10aあたりの使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数	
				薬量(ml)	希釈水量				
かんきつ	—	一年生雑草	雑草発生前～雑草生育期 ただし、収穫60日前まで	200～ 400	100ℓ	1回	雑草茎葉散布 又は 土壌散布	1回	
ぶどう			雑草発生前 ただし、収穫60日前まで						
もも			雑草発生前 ただし、収穫90日前まで						
パイナップル			植付直後(雑草発生前)	150～ 200	100～ 200ℓ		土壌散布		
ばれいしょ			植付後萌芽前 (雑草発生前～始期)	100～ 200	1回		雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布		
やまのいも			植付後萌芽前 (雑草発生前～始期 (イネ科雑草3葉期まで))						
			生育期 (畦間処理:雑草生育期) ただし、収穫60日前まで						
だいず			は種後出芽前 (雑草発生前)	150～ 200	100ℓ		1回	土壌散布	
			は種後出芽前 (雑草発始期)	100～ 200				雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	2回以内 (出芽前は 1回以内、 生育期は 1回以内)
			生育期 (畦間・株間処理:本葉5葉 期以降、雑草生育期) ただし、収穫30日前まで						
あずき	は種後出芽前 (雑草発生前)	150～ 200	100ℓ	1回	土壌散布				
	生育期 (畦間処理:雑草生育期) ただし、収穫30日前まで	100～ 200			雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布				
食用亜麻	生育期 (8葉展開期以降) (雑草発始期) ただし、収穫60日前まで	100	100	2回 以内	全面土壌散 布、 雑草茎葉散布 又は 全面散布	2回以内			
あま	生育期 (8葉展開期以降) (雑草発始期)								

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10aあたりの使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数
				薬量(ml)	希釈水量			
うこん	—	一年生雑草	植付後萌芽前 (雑草発生始期)	100～200	100ℓ	1回	全面土壌散布	2回以内 (萌芽前は1回以内、 生育期は1回以内)
			生育期 (畦間処理:雑草発生始期) ただし、収穫75日前まで				雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	
さとうきび (春植又は夏植)		一年生雑草、 多年生広葉雑草	植付後萌芽前 雑草発生前	160～240	100～200ℓ		土壌散布	2回以内 (萌芽前は1回以内、 生育期は1回以内)
			植付後萌芽前 雑草発生始期	100～150	100ℓ		雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	
			生育期(雑草生育期) ただし、 収穫60日前まで	100～240	100～200ℓ		土壌散布	
萌芽前(雑草発生前)			160～240	100～200ℓ	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布			
萌芽前(雑草発生始期)			100～150		100ℓ			
生育期(雑草生育期) ただし、 収穫60日前まで			100～240		100～200ℓ			
さとうきび (株出)		一年生雑草、 多年生広葉雑草	植付後萌芽前 雑草発生前	160～240	100～200ℓ		土壌散布	1回
			植付後萌芽前 雑草発生始期	100～150	100ℓ		雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	
生育期(雑草生育期) ただし、収穫75日前まで			100～240	100～200ℓ	土壌散布			
萌芽前(雑草発生前)			160～240	100～200ℓ	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布			
萌芽前(雑草発生始期)			100～150		100ℓ			
生育期(雑草生育期) ただし、収穫75日前まで			100～240		100～200ℓ			
飼料用 さとうきび (春植又は夏植)	一年生雑草、 多年生広葉雑草	植付後萌芽前 雑草発生前	160～240	100～200ℓ	雑草茎葉散布 又は 土壌散布	1回		
植付後萌芽前 雑草発生始期		100～150	100ℓ	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布				
生育期(雑草生育期) ただし、収穫75日前まで		100～240	100～200ℓ	土壌散布				
萌芽前(雑草発生前)		160～240	100～200ℓ	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布				
萌芽前(雑草発生始期)		100～150		100ℓ				
生育期(雑草生育期) ただし、収穫75日前まで		100～240		100～200ℓ				
飼料用 さとうきび (株出)	一年生雑草	生育期 (雑草生育期 畦間処理)	100～200	100ℓ	雑草茎葉散布 又は 土壌散布	1回		
生育期 (雑草生育期 畦間処理)		100～200	100ℓ	雑草茎葉散布 又は 土壌散布				
きく	水田畦畔	一年生雑草	雑草発生前～生育初期 ただし、収穫30日前まで	200～250	100～200ℓ	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	1回	
水稲 (水田畦畔)			雑草発生前～生育初期 ただし、収穫30日前まで	200～250				
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	コケ類	コケ類生育期	500～1000	100～200ℓ	3回以内	植栽地を 除く樹木等 の周辺地に 雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	3回以内
		イシクラゲ	イシクラゲ生育期	500～1000				
		一年生雑草	雑草発生前～生育初期	1000～2000				

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 本剤を所定量の水で希釈し、時々攪拌しながら均一に散布すること。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
- 本剤の散布適期は雑草発生前から生育期(草丈 15cm 以下)であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失ないように散布すること。
- だいに使用する場合、以下のことに注意すること。
 - ◆ は種時には十分な種深度を確保し、浅植えとならないように注意すること。
 - ◆ 畦間・株間処理に使用する場合、専用ノズルを使用するとともに、噴口はできるだけ低くして本葉にかからないようにすること。
 - ◆ は種後出芽前に薬剤散布をする場合、出芽直前に降雨が予想される場合には薬剤散布を行わないこと。
- あずきに使用する場合、以下のことに注意すること。
 - ◆ は種時には土壌を細かく砕いて、均一厚めに十分な覆土を行うとともに、は種深度を確保し、浅植えとならないように注意すること。
 - ◆ 畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して作物にかからないようにすること。
 - ◆ は種後出芽前に薬剤散布をする場合、出芽直前に降雨が予想される場合には薬剤散布を行わないこと。
- さとうきび及び飼料用さとうきびの新植後、分けつが始まる頃に薬剤がかかると薬害が発生することがあるので、さとうきび及び飼料用さとうきびにかからないように注意して散布すること。
- やまのいもの畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して、作物にかからないようにすること。
- 食用亜麻、あまにを使用する際には、生育の進んだ雑草には効果が劣ることがあるので、中耕などの機械除草との併用により効果の安定を図ること。
- うこんに使用する場合、以下のことに注意すること。
 - ◆ 植付時には土壌を細かく砕いて均一厚めに十分な覆土を行うとともに、植付深度を確保し、浅植えとならないように注意すること。
 - ◆ 畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して作物にかからないようにすること。
- きくの畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して、作物にかからないようにすること。
- 水田畦畔に使用する場合、雑草が枯れ残る場合もあるが、抑草効果は持続するので、追加散布や繰り返し散布をしないこと。また、のり面へは散布しないこと。
- 砂質で水はけの良い場所や雨の多い時期には、薬剤が土中深く浸透して有用植物に薬害が生じるおそれがあるので注意すること。
- 散布薬液の飛散、あるいは本剤流出によって有用植物に薬害が生じることのないように十分注意して散布すること。
- 樹木等有用植物の根が分布していると思われる所では使用をさけること。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ◆ 水源池、養殖池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- ❖ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。